

平成 20、21 年度
中期目標の達成状況報告書
(別添資料)

平成 22 年 6 月
帯広畜産大学

目 次

資料 1-1-1	「基礎学術ゼミナール」概要 (獣医学課程・畜産科学課程)	1
資料 1-1-2	平成 20 年度から開講している 補習的内容の科目一覧	2
資料 1-1-3	「基礎キャリア教育」概要	2
資料 1-1-4	「国際協力ディベート論」概要	2
資料 1-1-5	「情報処理基礎演習」概要	3
資料 1-1-6	イングリッシュ・リソース・センター規程	3
資料 1-1-7	FD 研修会資料情報提供の状況	3
資料 1-1-8	「TOEIC Prep」概要	4
資料 1-2-1	入学者選抜方法研究会 平成 20 年度活動報告	4
資料 1-2-2	「全学農畜産実習」概要	5
資料 1-2-3	大学教育センターホームページ	5

資料 1-3-1	学部の学科制から課程制への変更	6
資料 1-4-1	シラバス (HP)	6
資料 1-4-2	平成 22 年度新入生オリエンテーション 日程 (学部・別科)	7
資料 1-4-3	学生表彰状況	8
資料 1-4-4	帯広畜産大学後援会奨学金に関する 取り扱い要項	8
資料 1-4-5	奨学金支給実績 (平成 21 年度)	9
資料 1-4-6	外国人留学生チューター制度	9
資料 2-1-1	都市エリア産学官連携促進事業 (発展型) の事業概念図	10
資料 2-1-2	「アグロエコプロジェクト」概要	11
【不開示】資料 2-1-3	特許権等実施許諾契約書	12
資料 2-2-1	本学教員のサバティカル制度の概要	13
資料 2-2-2	原虫病研究センターにおける 共同研究実施機関一覧	14

(資料 1-1-1)

「基礎学術ゼミナール」概要（獣医学課程）

<p>授業概要・目標</p>	<p>獣医学教育の導入科目として、今後履修する各実験および将来獣医師として関わる各種動物の基本的事項について、体験学習に重点をおいて概括的に理解させる。大動物として牛、馬、コンパニオンアニマルとして犬、猫、実験動物としてマウス、ラット、鶏等を通して、また、附属家畜病院外来症例の診療の実際についても見学させることで、学生の獣医学への思索及び学習意欲を高揚させる一助とする。</p>
<p>授業計画</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション, 班分け 2. 附属家畜病院の概説 3. 子牛の飼育 4. 動物園動物 ～ 13. 分娩観察 14. 乳牛の泌乳生理 15. 総括

「基礎学術ゼミナール」概要（畜産科学課程）

<p>授業概要・目標</p>	<p>学生自らの研究発表及び討論を通じて、大学入学前の知識蓄積型の学習方法から、大学において自らが問題意識を持ち、自主的に勉学する方法を習得することを目標とする。その中で、文章読解力、作成力、表現力やコミュニケーション能力の育成も目指す。</p> <p>具体的には、1クラスの学生を6つの班（1班は6～7名）に分け、「食料」、「環境」、「生命」の3つのテーマによる研究発表を行う。1回のゼミでは1班30分程度で計2班が発表し、3週で1つのテーマの発表が終了する。発表はコンピュータとプロジェクタを用い、パワーポイント等によるプレゼンテーションで行う。</p>
<p>授業計画</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス, 班分け 2. 参考図書, 資料などの調べ方 3. プレゼンテーションの方法 4. 班別発表 食料1 ～ 14. 班別発表 生命3 15. まとめ <p>「食料」「環境」「生命」の発表順はクラスによって異なる場合がある。クラスによって2と3の順序が入れ替わることがある。</p>

(出典:平成 21 年度シラバス URL:http://www.obihiro.ac.jp/~kyoumu/2010_syllabus/katei/katei_kiban2010.htm)

(資料 1-1-2)

平成 20 年度から開講している補習的内容の科目一覧

「学ぶ基盤」に開講する科目

科目名：入門生物学（単位数：1）

授業概要・目標：高等学校での生物の学習が不十分だった学生を対象に、大学で生物学を学ぶ上で最小限必要な基礎知識を講義することを通じて、高校教育から大学教育への移行を支援する。

科目名：入門化学（単位数：1）

授業概要・目標：高等学校での化学の学習が不十分だった学生を対象に、大学で化学を学ぶ上で最小限必要な基礎知識を講義することを通じて、高校教育から大学教育への移行を支援する。

科目名：入門数学（単位数：1）

授業概要・目標：高等学校での数学の学習が不十分だった学生を対象に、大学で数学を学ぶ上で最小限必要な基礎知識を講義することを通じて、高校教育から大学教育への移行を支援する。

科目名：入門物理学（単位数：1）

授業概要・目標：高等学校での物理の学習が不十分だった学生を対象に、大学で物理学を学ぶ上で最小限必要な基礎知識を講義することを通じて、高校教育から大学教育への移行を支援する。

「共通基盤」に開講する科目

科目名：「Basic English」（単位数：1）

授業概要・目標：この科目では、音読・シャドーイング・ディクテーション・短文暗唱などのトレーニングを通して語彙力やコミュニケーション能力の向上を目指します。

(出典：平成 21 年度シラバス URL：http://www.obihiro.ac.jp/~kyoumu/2010_syllabus/katei/katei_kiban2010.htm)

(資料 1-1-3)

「基礎キャリア教育」概要

授業概要・目標	キャリア形成について理解を深め、社会人基礎力を涵養することを目標とする。 1. コミュニケーション能力の涵養, 2. 自己表現能力の涵養, 3. 職業意識の涵養, 4. 自主性, 独創性, 柔軟性の涵養を目指す。
授業計画	1. ガイダンス（キャリア形成とは、求められる人材） 2. 働くこと・生きることとキャリア教育 ～ 8. 発信力の涵養：グループ別報告

(出典：平成 21 年度シラバス URL：http://www.obihiro.ac.jp/~kyoumu/2010_syllabus/katei/katei_kiban2010.htm)

(資料 1-1-4)

「国際協力ディベート論」概要

授業概要・目標	国際協力の様々なテーマを取上げ、発展途上国の現状、先進国の支援取組、開発技術の移転法などの国際協力に関わる課題や問題点を討論する。課題に対し、文献・資料による調査結果を英語で発表し、グループ内の討論も英語で行い、国際社会で通用する実践的な英語力の向上も図る。
授業計画	1. Invited Presentation #1 & #2 2. Discussion Topic #1-#3 ～ 6. General Discussion

(出典：平成 21 年度シラバス

URL：http://www.obihiro.ac.jp/~kyoumu/2010_syllabus/katei/katei_kokusai2010.htm)

(資料 1-1-5)

「情報処理基礎演習」概要

授業概要・目標	この演習では、コンピュータやネットワークの利用経験が比較的少ない学生を対象として、研究発表に不可欠なパワーポイントの基礎の演習を行う。また、インターネット利用の基礎として、ホームページ作成方法の演習を行う。 最後に、最近、インターネット使用で問題となっている、ネットワークセキュリティや著作権についての解説も行う。
授業計画	1. この演習のガイダンス 2-5. パワーポイント演習 ・新しいプレゼンの作成 ～ 6-13. ホームページの作成 ～ 14-15. ネットワークセキュリティとインターネット上の著作権

(出典:平成 21 年度シラバス URL: http://www.obihiro.ac.jp/~kyoumu/2010_syllabus/katei/katei_kiban2010.htm)

(資料 1-1-6)

イングリッシュ・リソース・センター規程 (抄)

(目的)

第2条 センターは、国際的人材育成を目指して学生、教員等の実践的な英語能力の向上を図るため、英語教育に関する教材開発、授業改善等に関する支援を行うとともに大学の管理運営上必要となる支援を行うことを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- (1) 学生の英語教育に関する支援
- (2) 教員等の研究に関する支援
- (3) FDに関する支援
- (4) 大学の管理運営上必要となる業務に関する支援
- (5) その他必要な支援

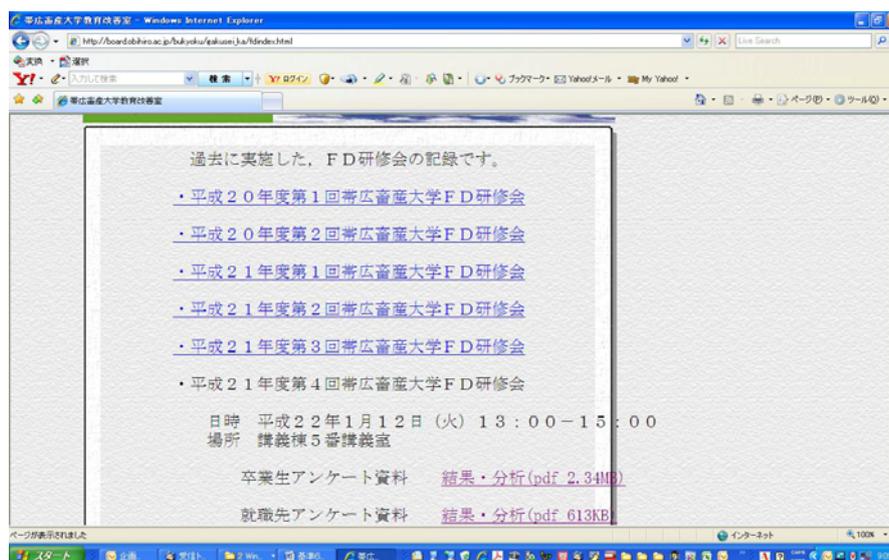
附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

(出典：イングリッシュ・リソース・センター規程 (平成21年規程第7号))

(資料 1-1-7)

FD 研修会資料情報提供の状況



(出典：大学教育センターホームページ (学内限定ページ))

(資料 1-1-8)

「TOEIC Prep」概要

授業概要・目標	In this course we will focus on reading and listening in the context of improving your TOEIC score. To take this class you MUST have taken the TOEIC test at least once and you should bring your score to the first class. To get a grade for the class you must take the TOEIC test in February. You will need to keep a combined vocabulary notebook and study journal. In addition you will be required to read a minimum of 5 grader readers. Each class will focus on tips for taking the TOEIC test plus activities to build vocabulary, increase reading speed and improve listening skills. The syllabus may change as the class progresses depending on the needs of the students.
授業計画	Introduction/Graded reader level test/vocabulary notebook & study journal/Moodle ～ Reading-Short Readings

(出典:平成 21 年度シラバス URL:http://www.obihiro.ac.jp/~kyoumu/2010_syllabus/katei/katei_kiban2010.htm)

(資料 1-2-1)

入学者選抜方法研究部会 平成20年度活動報告 (抜粋)

入学者選抜方法研究部会では、平成20年度に入学試験委員会から諮問された事項について、部会を開催し、情報収集及び問題点の改善等を協議したので、実施状況について報告する。

5. 学部の選抜方法及び募集人員等について

(1) 一般選抜の前期・後期日程及び推薦入試の募集人員について、獣医学課程は、昨年度と比較しても志願者が大幅に増えており、現状の定員は見直す必要はないと思われる。畜産科学課程の前期日程については、志願状況から現在の定員について見直す必要はないと思われる。ただし、今年度、特に後期日程の出願者が予想以上に少なかったことに加え、志願者のセンター試験の成績を見ると、中位以降の者の成績が大幅に落ち込んでいるという状況となっている。何らかの対策を講じない限り、来年度以降もこの傾向が続くであろうと思われ、畜産科学課程では大学が期待する質の高い入学者を確保することが困難となる状況であるとともに、入学後の教育体制にも大きな影響を及ぼしてくる。本部会では、早急にとり得る対策として、畜産科学課程後期日程の募集人員50人の一定数を、推薦選抜A及びBに振り分けることを提案したい。

現在、考えられる入学者の質の確保を維持していく最善の方策として、推薦選抜の入学者を増やすことであると思われる。推薦選抜の志願者は、増えている傾向にある中で、実際、志願者の半分以上を不合格とせざるを得ない状況となっている。一般選抜で、成績の低い学生をとらざるを得ない現状で、学力レベルは必ずしも図り知れない部分もあるが、人物や意欲の面で優れた志願者を確保することが、将来にわたっての質の維持に繋がって行くものと思われる。また、推薦選抜で入学した者の在学時における成績について、一般選抜で入学した者と比較しても差異は見られない。特に農業高校系の入学者は、実習の経験が豊富であることから3年次からの専門課程では、ポテンシャルが高く、リーダー的存在となっている者もいる。

(2) 学部推薦入試の出願要件の見直しについては、出願要件よりも推薦書、調査書での生徒会活動、ボランティアなど社会奉仕活動の活動歴を点数化して、総合点の中に加えることも、検討していく必要がある。

(出典：入学者選抜方法研究部会 平成20年度活動報告)

(資料 1-2-2)

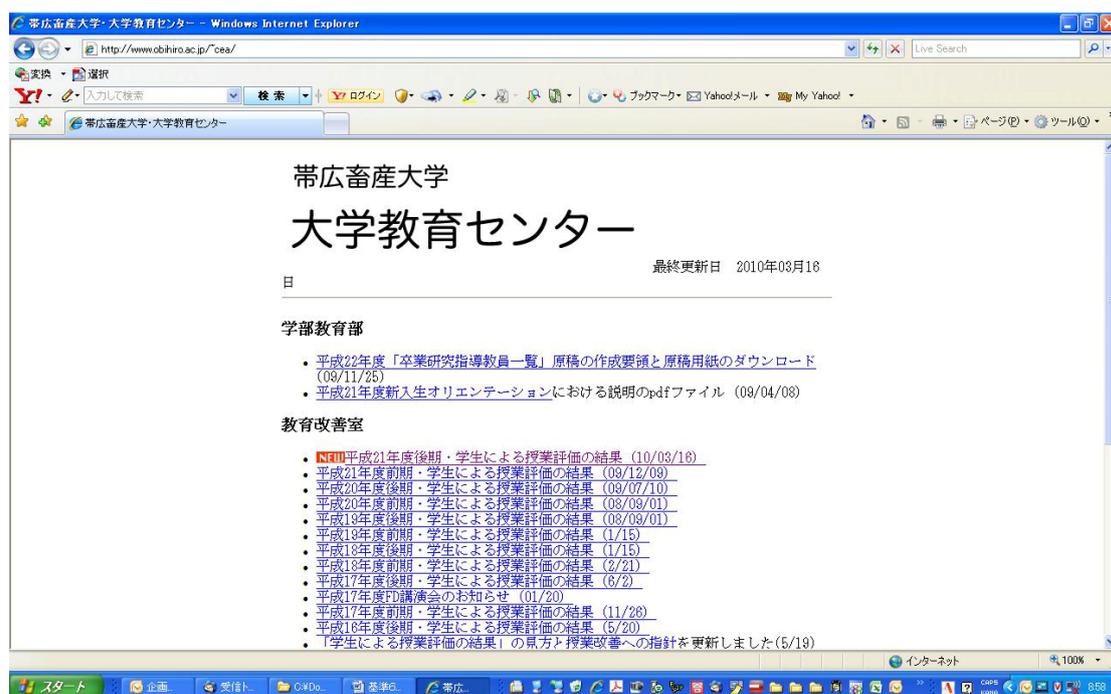
「全学農畜産実習」概要

授業概要・目標	畜産フィールド科学センターの実践教育機能と連帯して、以下の実習を行う。 1) 土づくりから作物の栽培 2) 家畜としてのブタの飼育（飼育、と殺、解体、肉は実習でソーセージにする） 3) 搾乳を経験し、牛の接する 4) アイスクリームやソーセージを作り試食する 5) 乗馬実習をとおして大動物の扱いを学ぶ これらの農畜産技術のある一端を実際に体験し、農畜産への幅広い興味や問題意識を育てることを目的とする。とくに、栽培実習、ブタ飼育実習を軸として、「農業、畜産の基本は、生き物を大切に育て、それが犠牲になり、私たち人間の食料となっていること」を学ぶ。
授業計画	1. 栽培実習：クラスあたり2アールの畑およびハウス1アールを割り当て、土づくり、施肥管理、種まき、種イモ植え、苗植え、栽培管理（除草や病害虫防除など）、収穫まで一連の栽培技術を学ぶ。畑の管理は、基本的に学生が主体となる。 2. ブタの飼育実習：クラスあたり1～2頭を子豚から育成する。基本的にえさやりや糞出しはクラス単位で実施する。7月にと殺、解体、解体した肉を使用しソーセージ実習を実施する。 3. ヒツジの毛狩り実習：本来一人でやる毛狩り作業を数人で協力して行うことにより、ヒツジの体の構造を概得し、ヒツジと人の両者に負担がかからない保定法と毛狩りの基礎を学ぶ。 4. 搾乳実習：乳牛に接し、乳房に触り、搾乳作業を行い、牛の管理と搾乳システムの実際を学ぶ。 5. 乗馬実習：実際に馬に触れる体験を通して、大動物の扱いを学ぶ。 6. アイスクリームとソーセージ作り：畜産物の加工システムおよび畜産加工食品の概要を学ぶ。 7. 上記以外に、農業機械実習、消費者動向調査などが予定されている。

(出典:平成21年度シラバス URL:http://www.obihiro.ac.jp/~kyoumu/2010_syllabus/katei/katei_kyotu2010.htm)

(資料 1-2-3)

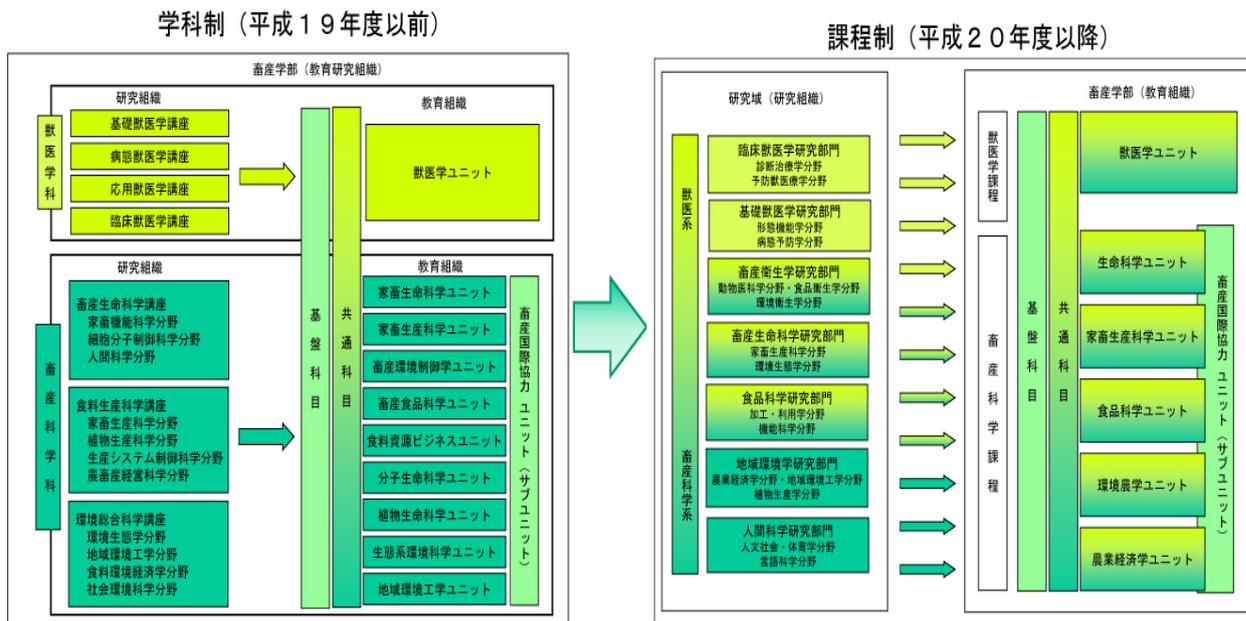
大学教育センターホームページ



(出典：大学教育センターホームページ (学内限定ページ))

(資料 1-3-1)

学部の学科制から課程制への変更



(出典：企画課)

(資料 1-4-1)

シラバス (HP)

Syllabus - Windows Internet Explorer

http://www.obihiro.ac.jp/~kyoumu/2010_syllabus/2010/2010_31002010.html

開講年度	2010
科目コード	31002010
科目名	生命と倫理 (BIOETHICS)
単位数	1
対象課程・学科等	獣医学課程・畜産科学課程
科目分野	基礎教育(学芸基礎・理論科目)
対象学年	1年
講義期間	前期
担当者	渡邊芳之、小池正徳、清水 隆、瀬尾哲也、柳川 久、倉持勝久
授業概要・目標	生命と生命倫理に関するさまざまな問題を、とくに畜産に関連するテーマを中心に学び、獣医畜産の専門職人として必要な生命倫理に関する知識を身につけるとともに、自分自身の問題として考える態度を培う。
授業計画	第1回 ガイダンス・生命倫理とはなにか(渡邊) 第2回 生命倫理の基本的な問題(渡邊) 第3回 遺伝子組換え生物(GMO)と生命倫理(小池) 第4回 実験動物と生命倫理(清水) 第5回 産業動物と生命倫理(科堀) 第6回 野生動物と生命倫理(柳川) 第7回 環境問題と生命倫理(倉持) (順番は変更になる場合があります。)
キーワード	生命、倫理
テキスト・教材	テキストは用いない。必要に応じて資料を配付する。
参考書	講義中や心理学研究室ホームページで紹介する。
成績評価の方法	毎回の授業中に課される課題の提出によって評価する。
履修にあたっての留意事項	
オフィスアワー	質問や相談は渡邊の研究室(総合研究棟1号館2階、N2507-3室)にて常時受け付ける。メールでの質問や相談も受けるがメールには必ず件名(タイトル)をつけ、本文に学籍番号と氏名を明記すること(これを守らないメールには返信しません。)
メールアドレス(後に)	obihiro.ac.jpをつけて ysnabe (渡邊)

(出典：平成21年度シラバス http://www.obihiro.ac.jp/~kyoumu/2010_syllabus/2010_syllabus_mokuji.html)

(資料 1-4-2)

平成22年度新入生オリエンテーション日程 (学部・別科)

平成22年4月6日 (火)	
会場：講堂	
時間	内容
13:00	配布物確認
13:20	副学長挨拶
13:30	オリエンテーション ・帯広畜産大学の教育システム ・大学でどう学ぶか ・大学生活をどう送るか ・保健管理センター、学生相談室の紹介

平成22年4月7日 (水)	
会場：講堂ほか	
時間	内容
10:30	オリエンテーション (講堂) ・学務課の業務内容紹介 ・学生生活のしおり解説 ・各種申請関係の説明等
11:30	図書館利用案内 (講堂)
~	
12:00	
13:00	履修関係説明 (学部：講堂, 別科：22番講義室)
15:00	クラス別懇談 (全学農畜産実習の6クラス, 別科クラス)
~	
17:00	

平成22年4月8日 (木)	
会場：大講義室ほか	
時間	内容
9:00	英語履修案内 (大講義室)
10:00	履修相談 (25番講義室)
~	
12:00	
13:00	健康診断 (コミュニケーションプラザ) 男子13:00~14:30
~	
16:30	女子14:30~16:30

平成22年4月9日 (金)	
会場：講堂ほか	
時間	内容
9:30	講堂へ入場
10:00	入学式 (講堂)
~	
13:00	履修案内 (獣医学課程学生：4番講義室, 推薦入学A選抜学生：22番講義室)
~	
14:00	既修得単位認定 (21番講義室)
~	
15:00	

平成22年4月10日 (土)	
会場：講堂	
時間	内容
9:00	課外活動紹介 ・体育会 ・文化会 ・その他
~	

- 4月6日(火)13時から、関係書類の配布を行いますので、筆記用具持参の上、必ず出席してください。
なお、やむを得ず欠席する場合は、事前に学務課学務係(TEL:0155-49-5293)へ連絡願います。
- 健康診断は、エックス線撮影などを実施するので、ボタン、ファスナー、金属類のない着脱しやすい服装にしてください。
なお、当日受診できない場合は、学務課課外活動担当(TEL:0155-49-5307)へ連絡願います。

(出典：オリエンテーション資料)

(資料 1-4-3)

学生表彰状況

表彰事由	H16	H17	H18	H19	H20	H21
学業成績優秀者	5	11	11	12	12	12
学会等での受賞	—	2	2	3	—	2
全国大会等で優秀な成績（個人）	4	5	4	3	3	1
全国大会等で優秀な成績（団体）	—	2	2	1	2	—
その他特に表彰に値すると認められるもの	2	—	—	1	—	—

(出典：学務課調べ)

(資料 1-4-4)

帯広畜産大学後援会奨学金に関する取り扱い要項（抄）

(趣旨)

- 1 この要項は、帯広畜産大学後援会からの寄付金を原資とする奨学金（以下「奨学金」という。）の取扱いに関し、必要な事項を定める。

(対象者)

- 2 奨学金は、帯広畜産大学に在学する日本人学部学生および大学院学生で、学業・人物ともに優れ、経済的理由により修学が困難である者に対する勉学奨励と生活援助を目的として給付する。

(受給資格)

- 3 奨学金の給付を受ける者（以下「奨学生」という。）は、授業料免除、日本学生支援機構及びその他の奨学金を受けていない者、かつ、学業優秀な者で、次のいずれかに該当していなければならない。
- (1) 経済的理由により修学が著しく困難であると認められる者。
- (2) 申請前6か月以内において、学資負担者が死亡し、又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより修学が著しく困難であると認められる者。

(支給額・期間)

- 4 奨学金支給額は、月額30,000円、給付人数は5人とし、支給期間は1年間とする。

附 則

この基準は、平成21年7月6日から実施し、平成21年4月1日から適用する。

(出典：帯広畜産大学後援会奨学金に関する取り扱い要項)

(資料 1-4-5)

奨学金支給実績 (平成 21 年度)

日本人学生対象:

○日本学生支援機構奨学金

種 別	受給者数
大学第一種奨学生	175
大学第二種奨学生	311
大学院第一種奨学生	35
大学院第二種奨学生	18

○本学独自の奨学金

種 別	金 額	受給者数	備 考
帯広畜産大学後援会奨学金	30,000 円	5	給付型: (毎月: 単年度)
帯広畜産大学大学院畜産学研究所国際協力特別奨学金制度	50,000 円	1	貸与型: 大学院 (毎月: 修学期間) ※修了後、国際協力関係の事業に従事した場合は、返還免除

○その他の奨学金

種 別	金 額	受給者数	備 考
財団法人中董奨学会奨学金	30,000 円	1	給付型: 学部 (毎月: 1~2 年)
財団法人栗林育英学術財団奨学金	25,000 円	2	給付型: 学部 (毎月: 修学期間)
財団法人朝鮮奨学会奨学金	25,000 円	2	給付型: 大学院 (毎月: //)
財団法人朝鮮奨学会奨学金	25,000 円	2	給付型: 学部 (毎月: 修学期間)
高知県獣医師修学資金	100,000 円	1	給付型: 学部 (毎月: 修学期間) ※卒業後、高知県内の指定機関に獣医師として勤務しなければ、返還の義務が生じる。
北九州市奨学資金	45,000 円	1	貸与型: 大学院 (毎月: 修学期間)
富山県奨学資金	51,000 円	1	貸与型: 学部 (毎月: 修学期間)
福島県奨学資金	35,000 円	2	貸与型: 学部 (毎月: 修学期間)
沖縄県国際交流・人材育成財団貸与奨学金	45,000 円	1	貸与型: 学部 (毎月: 修学期間)
財団法人清川秋夫育英奨学財団奨学金	50,000 円	1	貸与型: 学部 (毎月: 修学期間)
財団法人電通育英会奨学金	40,000 円	2	貸与型: 学部 (毎月: 修学期間) ※平成 21 年度卒業生 1 名は、成績優秀者のため返還免除

外国人留学生対象:

○日本学生支援機構奨学金

種 別	金 額	受給者数	備 考
私費外国人留学生学習奨励費	65,000 円	8	給付型: 大学院 (毎月: 単年度)
	48,000 円	2	給付型: 学部 (毎月: 単年度)

○本学独自の奨学金

種 別	金 額	受給者数	備 考
帯広畜産大学大学院畜産学研究所畜産衛生学専攻外国人留学生特別選抜奨学金	80,000 円	9	給付型: 大学院 (毎月: 修学期間) ※修学中における入学料及び授業料も免除
帯広畜産大学後援会助成金奨学費	30,000 円	2	給付型: (毎月: 単年度) ※1 名は岩手連大学生

○その他の奨学金

種 別	金 額	受給者数	備 考
ロータリー米山記念奨学会奨学金	140,000 円	2	給付型: 大学院 (毎月: 単年度) ※1 名は岩手連大学生
東和工研株式会社育英奨学金	50,000 円	2	給付型: (毎月: 単年度)
日本国際教育支援協会一般奨学金	30,000 円	1	給付型: (毎月: 単年度)
北海道国際交流支援事業助成金	22,500 円	3	給付型: 大学院 (毎月: 単年度)
国際連合大学私費留学生育英資金貸与事業	280,000 円 150,000 円	1 1	貸与型: 大学院 (一度渡しきり)

(出典: 学務課調べ)

(資料 1-4-6)

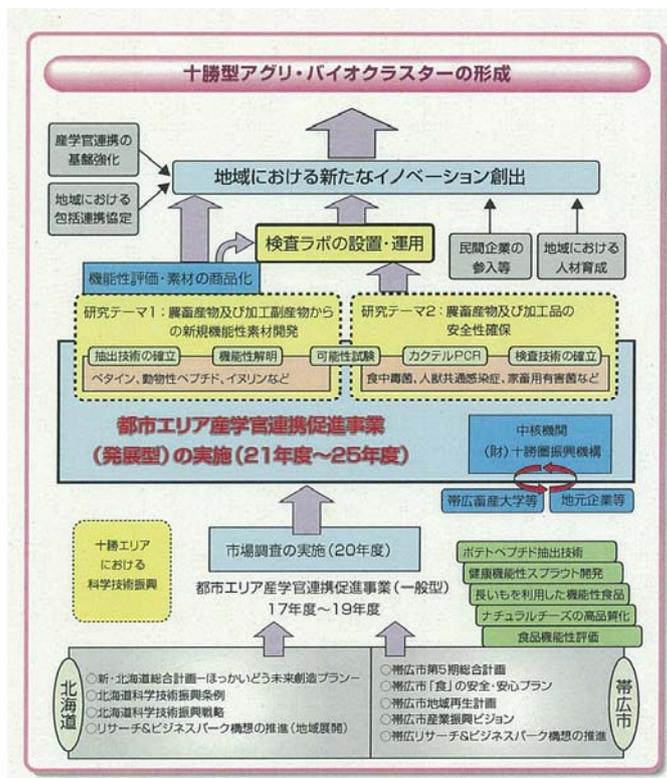
外国人留学生チューター制度

- 外国人留学生に対し、指導教員の指導の下に教育・研究について個別の課外指導を行い、もって留学生の学習・研究効果の向上を図ることを目的とする。
- 課外指導の対象者は、原則として、学部留学生については、大学進学後最初の 2 年間、研究留学生については、渡日後最初の 1 年間 (ただし、日本語教育を受ける者にあつては日本語教育修了後 1 年 間) とする。
- チューターは、指導教員の推薦に基づき、留学生の専攻する分野に関連のある者のうちから選定する。なお、選定対象となる者は、原則として、大学院学生であり留学生と同じ研究室の所属とする。
- 課外指導の内容
 - 当該外国人留学生に対し、指導教員の指導の下に日本語教育の補講を行う。
 - 日本語教育の補講は、最低 1 週当たり 2 日各 2 時間とし、日時を決めて定期的に行う。
 - 当該外国人留学生に対し、指導教員の指導の下に留学生の修学・研究上必要と思われる事項について、随時助言を行う。
 - メールアドレス (インターネットメールでも可) を取得させ、留学生担当部署にそのアドレスを連絡する。
 - 当該外国人留学生の生活に関し、必要に応じて助言する。
 - 特に渡日及び入学直後の当該外国人留学生については、日本の事情をはじめとして、本学及び帯広市の概要についても説明する。
 - チューターに委嘱された者は、外国人留学生の良き理解者となり、友人となるよう努力すること。
 - その他
- その他
チューターは、実施修了後に指導教員を経由して「チューター実施報告書」を提出する。これに基づき指導手当 (謝金) を支給する。

(出典: 大学ホームページ (学内限定ページ: 就職支援室))

(資料 2-1-1)

都市エリア産学官連携促進事業（発展型）の事業概念図



(出典：文部科学省 都市エリア産学官連携促進事業ホームページ)

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/science/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2009/12/10/1286959_13.pdf

(資料 2-1-2)

「炭素・窒素・リンの有効利用による環境保全型農法の構築」(アグロエコプロジェクト)概要

アグロエコプロジェクトとは

近年、直面しつつある世界食料危機に対応して日本の食糧自給力を高めるため、また、化学肥料の高騰、リン資源の枯渇、輸入飼料の高騰に直面しているため、農法(農業技術)の変革が求められています。

他方、地球温暖化に対処するため農業においても炭酸ガスの削減が必要とされています。また、畜産化の進展による糞尿処理問題(窒素過多作物、水質汚染)を抱えています。

これらの課題に答えるため生物系資源(バイオマス)を利用する環境保全型の農法を構築し、その普及方法を提案します。

本プロジェクトでは土壌中の有機態炭素量が、作物の窒素、リン、ミネラル吸収に及ぼす作用の程度を実証的に解明し、作物・牧草、ひいては乳牛の健康にも好影響を及ぼすような農法を構築し、これは温室効果ガスの発生や窒素の過剰使用を抑制する環境保全型の農法であり、完熟堆肥の生産はこの農法に不可欠です。

それと同時に、完熟堆肥の品質評価方法を開発することにより、農法の普及方法を提案する事が目的です。

完熟堆肥の生産には、可能なバイオマス資源(圃場残渣物)を有効利用し、圃場からの廃棄物は可能な限り少なくなります(ガス、元素抑制も含む)。

(出典：アグロエコプロジェクトホームページ <http://www.agro-eco.jp/>)

(資料 2-1-3)

(出典：研究協力課)

(資料 2-2-1)

本学教員のサバティカル制度の概要

1. 本学におけるサバティカル制度

本学教員の教育研究の遂行に必要な知識及び能力の向上を図るため、大学又は所属部門等の管理、運営及び教育に関する業務を免除し、教員自ら研究目標を定めて一定の期間にわたり研究に専念させる研修制度として実施する。(研修場所は本学、国内又は国外を問わない。)

2. 対象職種

教授、准教授及び講師とする。(任期付き教員を除く)

3. 取得要件

- (1) 本学で7年間継続勤務後、取得の権利が発生するものとする。
- (2) 2回目以降は、直前のサバティカル研修終了後から起算し7年間継続勤務した者とする。
- (3) 6月以上の出張、研修又は職員就業規則第15条第1項第4号に規定するいわゆる研究休職の期間がある場合は、終了後から起算し7年間継続勤務した者とする。
- (4) 定年退職前5年間は、原則として対象外とする。

4. 取得期間

取得期間は、前期又は後期のいずれかの期間内(6月以内)とする。

5. 職務免除等

- (1) サバティカル研修期間中は、原則として管理、運営及び教育に関する職務を免除する。
- (2) サバティカル研修期間中は、原則として兼業は認められない。

6. 給与等

サバティカル研修期間中は、職員給与規程に基づく所定の給与及び諸手当を全額支給する。

7. 手続き及び許可基準

- (1) サバティカル研修を希望する教員は、研修の目的、研修の期間、研修を行う場所、管理・運営及び教育の代替方策等を記載した書類を作成し、所属する部門等の長(部門長及び各センター長)に提出する。
- (2) 部門等の長は、提出があったときは、当該教員が所属する部門等の管理、運営及び学生の教育に支障がないと認められる場合に限り、学長に申請することができる。
- (3) 学長への申請期限は、当該研修開始の6月前までとする。
- (4) 学長は、研修計画内容及び本学運営への影響等を考慮の上、許可する。
- (5) 許可できる教員数は、原則として1年度につき部門等で1名とする。
- (6) サバティカル研修期間中に所属勤務場所を離れる場合は、出張又は研修等に係る所定の手続きを行う。

8. 研究成果報告書の作成

サバティカル研修終了後は、30日以内に報告書を部門等の長を通じて学長に提出する。

(出典：サバティカル研修制度規程)

(資料 2-2-2)

原虫病研究センターにおける共同研究実施機関一覧

(公募型)

平成 22 年度実施 (平成 21 年度公募)

研究機関名	研究課題名
鹿児島大学農学部	バベシア原虫のオートファジー関連遺伝子の特性解明
早稲田大学先進理工学科学学生命化学科	海洋生物由来の抗原中物質の探索研究
北海道大学獣医学研究科	アフリカトリパノソーマとツエツエバエの相互作用に関する研究
東京大学医科学研究所	トキソプラズマ原虫の発現遺伝子解析による宿主感染防御機構の解明
北海道大学獣医学研究科	ミャンマー連邦のウシにおけるネオスポーラ症ならびにトキソプラズマに関する研究
獨協医科大学熱帯病寄生虫病室	人獣共通感染性サル・マラリアにおける迅速診断法の開発
北里大学獣医学部	バベシア感染宿主動物ならびに媒介マダニにおける薬物代謝の変動に関する研究
北海道立畜産試験場	繁殖雌牛におけるネオスポラ感染の実態調査
国立感染症研究所寄生動物部	エンセファリトゾーン症の診断法の開発
酪農学園大学獣医学部	ピロプラズマ目原虫の挿入配列に基づく進化系統解析に関する研究
東京大学大学院薬学系研究科遺伝学教室	マラリア媒介蚊の口吻発生メカニズムの解明
Kyungpook National University Department of Parasitology, School of Medicine	Development of diagnostic methods for Acanthamoeba using loop-mediated isothermal amplification method
Loyola University Chicago Department of Biology	Investigation of antioxidant protein expression in oocysts of the Malaria parasite <i>Plasmodium</i>

(公募型)

平成 21 年度実施 (平成 20 年度公募)

研究機関名	研究課題名
沖縄県家畜衛生試験場	沖縄の豚から分離したトキソプラズマ原虫株の性状解析
三重大学大学院医学系研究科	病原体媒介節足動物における原虫検出法の開発
酪農学園大学獣医学部	ピロプラズマ目原虫の挿入配列に基づく進化系統解析に関する研究
群馬大学医学部保健学科	熱帯熱マラリア重症化に関わる原虫因子の検索
東京大学医科学研究所	病原体媒介節足動物におけるウイルス検出法の開発
国立国際医療センター研究所	マラリア流行対策のための適正技術開発研究
北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター	トリパノソーマの細胞接着と伝搬阻止ワクチン開発に関する研究
東京大学医科学研究所	バベシア原虫の全長 cDNA の比較解析
鹿児島大学農学部	マダニ媒介性イヌバベシア症の TRANSMISSION-BLOCKING VACCINE 開発
北里大学獣医学部	雌雄マウスでみられるバベシア感受性の相違に関する研究

(出典：研究協力課調べ)

(非公募型：国内)

平成 21 年度実施

研究機関名	研究課題名
東京大学医科学研究所・北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター	トキソプラズマ原虫の完全長 cDNA ライブラリーの作製と診断・予防・治療用標的分子の探索
鹿児島大学農学部	犬バベシア原虫完全長 cDNA ライブラリーの作製と診断・予防・治療用標的分子の探索
麻布大学獣医学部	犬バベシア原虫試験管培養法の確立
岐阜大学応用生物科学部	組換えトキソプラズマ原虫作製法の確立と応用
沖縄県家畜衛生試験場	トキソプラズマ原虫日本分離株の遺伝子解析

富山化学工業株式会社	新規抗マラリア薬の開発研究
愛媛大学医学部・香川大学医学部	抗酸化メカニズムがマラリア原虫の宿主寄生適応に果たす役割の研究
獨協医科大学国際研究教育施設	日本住血吸虫症流行対策のための適正技術開発研究
東海大学糖鎖科学研究所・産業技術総合研究所糖鎖医学工学研究センター	原虫病に対する糖鎖被覆リポソームワクチンの開発研究
栄研化学株式会社	HAT用LAMPキットの開発
北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター	ザンビアにおける人獣共通感染性トリパノソーマの疫学調査と野外株タイピング
東レ株式会社医薬研究所	原虫感染に対するインターフェロンベータの治療効果の検証
産業技術総合研究所糖鎖工学研究センター	原虫感染における宿主シアル酸の役割
東京大学医科学研究所	ネオスポラ原虫の完全長 cDNA ライブラリーの作製
愛媛大学無細胞生命科学工学研究センター	マラリア原虫タンパク質を用いたトキソプラズマに対するワクチン開発
大阪大学微生物研究所	TLR11 ノックアウトマウスを用いた原虫感染における病態解析
杏林大学医学部感染症学講座	電子顕微鏡による原虫の形態観察
北海道畜産試験場	牛におけるネオスポラ感染状況の把握
共立製薬	牛におけるネオスポラワクチンの開発
東海大学	ネオスポラ用リポソームワクチンの作製
東京大学大学院薬学系研究科	ビタミンE 欠乏と原虫感染抵抗性との関係に関する研究
大阪大学大学院理学研究科	病原体媒介蚊の CO2 センシング機構に関する研究
東京大学医科学研究所	病原体媒介蚊におけるウイルス増殖機構に関する研究
九州大学大学院理学院	節足動物におけるグルタミナーゼの機能解析
大阪大学微生物病研究所	昆虫を用いたレジオネラ菌の病原性解析

(非公募型：国外)

平成 21 年度実施

研究機関名	研究課題名
延辺大学獣医学部・新疆農業大学・青海省獣医学研究所・上海獣医学研究所	中国における原虫感染症の疫学調査
全北大学獣医学部・慶尚大学獣医学部	韓国における原虫感染症の疫学調査
カセサート大学獣医学部	タイにおける原虫感染症の疫学調査
モンゴル獣医学研究所	モンゴルにおけるマダニ媒介性原虫感染症の疫学調査
フエ大学獣医学部	ベトナムにおけるマダニ媒介性原虫感染症の疫学調査
College of Public Health, University of the Philippines Manila	マラリア流行対策のための適正技術開発研究
College of Public Health, University of the Philippines Manila	日本住血吸虫症流行対策のための適正技術開発研究
The University of Free State, Qwaqwa campus	家畜原虫病診断法の開発および疫学調査
ジョンホプキンス大学	LAMP法の人トリパノソーマ症診断への応用
ヴィクトリア大学	トリパノソーマコンゴレンセのプロテオーム解析
アイオワ大学	トリパノソーマコンゴレンセのEST解析
Institute of Veterinary Medicine, Mongolia	モンゴルにおける原虫感染症の疫学調査
スタンフォード大学医学部	病原体媒介蚊におけるマラリア原虫認識機構に関する研究

(出典：原虫病研究センター調べ)